

2023年2月15日(水)

老球の細道716号

選手の将来性を考える

会津バスケットボール協会 室井 富仁

最近見る会津地区のミニバスケットボールは能力の高い選手が多くなってきているように感じる。先日「2022年度会津地区ミニバスケットボール年間ベスト5」の表彰式があった。年間を通して見てきたが、どの選手も素晴らしい能力の持ち主で、いますぐに中学校(U-15)の大会に出場しても十二分に通用する実力を持っている。

表彰を終えた後いつも心配していたことがまた脳裏を横切った。「この中で何人の選手が高校以降までバスケットボールを続けることができるのか、また、何人の選手が順調に能力を伸ばし続け、さらに技術的にも人間的にも成長し凄い選手に成長していくのか・・・」

わが子3人(長男は大阪桐蔭、次男は履正社、長女は神戸弘陵)を高校野球の超強豪校へ進学させ、全国優勝も経験させた母親の話が以前朝日新聞に掲載されていた。わが子を甲子園に、プロ野球選手にと少年野球の頃から入れ込む親が多い中、この親はそんな思いは一切持たなかったという。まずは学校生活、そして「てんぐ」にさせないこと。

「学校の勉強や宿題ができひんとか、絶対に言わせへん。まずは学校生活。プラスアルファで野球やからね、と。一生懸命やるから親も全力でサポートするけど、野球が上手いからそれだけでいいとか、てんぐになるようなことがないように気をつけました」

競技の入り口であるミニ、中学校段階では、指導者や親は、競技力だけではなく、様々な面での成長に目を向けて評価することが求められる。そうすることによって「てんぐ」になることを防ぐことができる。人はうぬぼれたら最後、下降する奈落の道が待っている。

また、バスケットボールしかやらないために伸び悩みも危惧される。ミニでスーパースター、高校になったら普通の選手。最悪はリタイアしていなくなってしまった。このようなケースを今までたくさん目にしてきた。そしてその逆パターンも同じくらい見てきた。

トップアスリートの育成に詳しいある専門家は次のようなことを述べている。

「人間は幼少期に日常の生活や遊びを通じ、“動き”の習得をします。基本的な動きは36種類『体のバランスをとる動き(立つ、起きる、回る等姿勢の変化や安定性を伴う9種類)』『体を移動する動き(歩く、走る、跳ぶ等重心の移動を伴う9種類)』『他者や物を扱う動き(持つ、運ぶ、支える等18種類)』あるとされます。これらを習得したうえで、10～12歳ごろに、その動きを発展、応用させる能力が発育します」

ある程度のレベルから伸びない選手がいる。バスケットしかやってこないと動きの応用や転化ができないため伸びが頭打ちになる。逆に伸びる選手は色々な運動経験がある。そして何よりもバスケット以外のことにおいてもバスケットと同じようがんばられる。

真の勝負は体が出来上がり、心が出来上がり、人間が出来上がってからである。私が関係した選手の中で高校から伸びた選手は3つの特徴を持っていた。①高い目標(目指すは全国、世界)②素直な心(周囲が教えてくれ、応援してくれる)③負けず嫌い(チョコが少ない)。